

## 区分別科目の内容

区分別 科目名	時間 (計 )	特定行為 名	特定行為区分に含まれる特定行為 に共通して学ぶべき事項		特定行為ごとに学ぶべき事項	
			内容	時間	内容	時間
呼吸器 (気道確保に係るもの) 関連	9	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気道確保に関する局所解剖</li> <li>2. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理</li> <li>3. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント</li> <li>4. 経口又は経鼻気管挿管の目的</li> <li>5. 経口又は経鼻気管挿管の適応と禁忌</li> <li>6. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応</li> <li>7. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理</li> <li>8. バックバルブマスク(BVM)を用いた用手換気</li> </ol>	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的</li> <li>2. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌</li> <li>3. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技</li> </ol>	5
呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連	29	侵襲的陽圧換気の設定の変更	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人工呼吸療法の目的</li> <li>2. 人工呼吸療法の適応と禁忌</li> <li>3. 人工呼吸療法に関する局所解剖</li> <li>4. 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理</li> <li>5. 人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルア</li> </ol>	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵襲的陽圧換気の設定の目的</li> <li>2. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌</li> <li>3. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	6

			セスメント 6. 人工呼吸器管理の適応と禁忌 7. 人工呼吸器のメカニズム ・種類・構造		4. 侵襲的陽圧換気の選択と適応 5. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更			1. 非侵襲的陽圧換気の目的 2. 非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌 3. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク(有害事象とその対策等) 4. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の選択 5. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	6
		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整			1. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的 2. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌 3. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク(有害事象とその対策等) 4. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量 5. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の方法	6
		人工呼吸器からの離脱			1. 人工呼吸器からの離脱の目的 2. 人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌 3. 人工呼吸器からの離脱に伴うリスク(有害事象と	6

					その対策等) 4. 人工呼吸器からの離脱の方法	
呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの) 関連	8	気管カニューレの交換	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気管切開に関する局所解剖</li> <li>2. 気管切開を要する主要疾患の病態生理</li> <li>3. 気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>4. 気管切開の目的</li> <li>5. 気管切開の適応と禁忌</li> <li>6. 気管切開に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気管カニューレの適応と禁忌</li> <li>2. 気管カニューレの構造と選択</li> <li>3. 気管カニューレの交換の手技</li> <li>4. 気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応</li> </ol>	4
循環器 関連	20	一時的ペースメーカの操作及び管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖</li> <li>2. 一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理</li> <li>3. 一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> </ol>	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一時的ペースメーカの目的</li> <li>2. 一時的ペースメーカの適応と禁忌</li> <li>3. 一時的ペースメーカに伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. ペーシング器機の種類とメカニズム</li> <li>5. ペースメーカのモードの選択と適応</li> <li>6. 一時的ペースメーカの操作及び管理方法</li> <li>7. 患者・家族への指導及び教育</li> </ol>	4
		一時的ペースメーカリードの抜去	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一時的ペースメーカリードの抜去の目的</li> <li>2. 一時的ペースメーカリードの抜去の適応と禁忌</li> <li>3. 一時的ペースメーカリードの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 一時的ペースメーカリードの抜去の方法</li> </ol>		4	

		経皮的心肺補助装置の操作及び管理			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経皮的心肺補助装置の目的</li> <li>2. 経皮的心肺補助装置の適応と禁忌</li> <li>3. 経皮的心肺補助装置とそのリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 経皮的心肺補助装置のメカニズム</li> <li>5. 経皮的心肺補助装置の操作及び管理の方法</li> </ol>	4
		大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大動脈内バルーンパンピングの目的</li> <li>2. 大動脈内バルーンパンピングの適応と禁忌</li> <li>3. 大動脈内バルーンパンピングに伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 大動脈内バルーンパンピングの操作及び管理の方法</li> <li>5. 大動脈内バルーンパンピングからの離脱のための補助の頻度の調整の適応と禁忌</li> <li>6. 大動脈内バルーンパンピングからの離脱のための補助の頻度の調整に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>7. 大動脈内バルーンパンピングからの離脱の操作及び管理の方法</li> </ol>	4
心嚢ドレーン管理関連	8	心嚢ドレーンの抜去	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心嚢ドレナージに関する局所解剖</li> <li>2. 心嚢ドレナージを要する主要疾患の病態生理</li> <li>3. 心嚢ドレナージを要する</li> </ol>	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心嚢ドレーンの抜去の適応と禁忌</li> <li>2. 心嚢ドレーンの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	4

			<p>主要疾患のフィジカルアセスメント</p> <p>4. 心嚢ドレナージの目的</p> <p>5. 心嚢ドレナージの適応と禁忌</p> <p>6. 心嚢ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策等)</p>		<p>3. 心嚢ドレナの抜去の方法と手技</p>	
胸腔ドレナ管理関連	13	<p>低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更</p>	<p>1. 胸腔ドレナージに関する局所解剖</p> <p>2. 胸腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理</p> <p>3. 胸腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント</p> <p>4. 胸腔ドレナージの目的</p> <p>5. 胸腔ドレナージの適応と禁忌</p> <p>6. 胸腔ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策等)</p>	5	<p>1. 低圧胸腔内持続吸引の適応と禁忌</p> <p>2. 低圧胸腔内持続吸引に伴うリスク(有害事象とその対策等)</p> <p>3. 低圧胸腔内持続吸引器のメカニズムと構造</p> <p>4. 低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更方法</p>	4
		<p>胸腔ドレナの抜去</p>			<p>1. 胸腔ドレナの抜去の適応と禁忌</p> <p>2. 胸腔ドレナの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)</p> <p>3. 胸腔ドレナの抜去の方法と手技</p>	4
腹腔ドレナ管理関連	8	<p>腹腔ドレナの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜去を含む。)</p>	<p>1. 腹腔ドレナージに関する局所解剖</p> <p>2. 腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理</p> <p>3. 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント</p> <p>4. 腹腔ドレナージの目的</p> <p>5. 腹腔ドレナージの適応と禁忌</p> <p>6. 腹腔ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策等)</p>	4	<p>1. 腹腔ドレナの抜去の適応と禁忌</p> <p>2. 腹腔ドレナの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)</p> <p>3. 腹腔ドレナの抜去の方法と手技</p>	4

ろう孔 管理関 連	22	胃ろうカテ ーテル若 しくは腸ろ うカテーテ ル又は胃 ろうボタン の交換	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろ うに関する局所解剖</li> <li>2. 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろ うを要する主要疾患の病 態生理</li> <li>3. 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろ うを要する主要疾患のフィ ジカルアセスメント</li> <li>4. カテーテル留置と患者の QOL</li> <li>5. カテーテルの感染管理</li> <li>6. カテーテル留置に必要 なスキンケア</li> </ol>	10	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胃ろう及び腸ろうの目的</li> <li>2. 胃ろう及び腸ろうの適応 と禁忌</li> <li>3. 胃ろう及び腸ろうに伴うリ スク(有害事象とその対策 等)</li> <li>4. 栄養に関する評価</li> <li>5. 胃ろう造設の意思決定ガ イドライン</li> <li>6. 胃ろう及び腸ろう造設術 の種類</li> <li>7. 胃ろう、腸ろうカテーテル 及び胃ろうボタンの種類と 特徴</li> <li>8. 胃ろう、腸ろうカテーテル 及び胃ろうボタンの交換 の時期</li> <li>9. 胃ろう、腸ろうカテーテル 及び胃ろうボタンの交換 の方法</li> </ol>	6
		膀胱ろうカ テーテル の交換	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 膀胱ろうの目的</li> <li>2. 膀胱ろうの適応と禁忌</li> <li>3. 膀胱ろうに伴うリスク(有 害事象とその対策等)</li> <li>4. 膀胱ろう造設術</li> <li>5. 膀胱ろうカテーテルの種 類と特徴</li> <li>6. 膀胱ろうカテーテルの交 換の時期</li> <li>7. 膀胱ろうカテーテルの交 換の方法</li> </ol>	6		
栄養に 係るカ テーテ ル管理 (中心 静脈カ テーテ	7	中心静脈 カテーテ ルの抜去	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中心静脈カテーテルに 関する局所解剖</li> <li>2. 中心静脈カテーテルを 要する主要疾患の病態生 理</li> <li>3. 中心静脈カテーテルを 要する主要疾患のフィジ</li> </ol>	3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中心静脈カテーテルの 抜去の適応と禁忌</li> <li>2. 中心静脈カテーテルの 抜去に伴うリスク(有害事 象とその対策等)</li> <li>3. 中心静脈カテーテルの 抜去の方法と手技</li> </ol>	4

ル 管 理) 関 連			カルアセスメント 4. 中心静脈カテーテルの 目的 5. 中心静脈カテーテルの 適応と禁忌 6. 中心静脈カテーテルに 伴うリスク(有害事象とそ の対策等)			
栄養に 係るカ テーテ ル管理 (末梢 留置型 中心静 脈注射 用カテ ーテル 管理) 関連	8	末梢留置 型中心静 脈注射用 カテーテ ルの挿入	1. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルに関する 局所解剖 2. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルを要する 主要疾患の病態生理 3. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルを要する 主要疾患のフィジカルア セスメント 4. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルの目的 5. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルの適応と 禁忌 6. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルに伴うリス ク(有害事象とその対策 等)	3	1. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルの挿入の 適応と禁忌 2. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルの挿入に 伴うリスク(有害事象とそ の対策等) 3. 末梢留置型中心静脈注 射用カテーテルの挿入の 方法と手技	5
創傷管 理関連	34	褥瘡 <sup>じよくそう</sup> 又は 慢性創傷 の治療に おける血 流のない 壊死組織 の除去	1. 皮膚、皮下組織(骨を含 む)に関する局所解剖 2. 主要な基礎疾患の管理 3. 全身・局所のフィジカル アセスメント 4. 慢性創傷の種類と病態 5. 褥瘡 <sup>じよくそう</sup> の分類、アセスメント ・評価 6. 治癒のアセスメントとモニ タリング(創傷治癒過程、 TIME 理論等)	12	1. 褥瘡 <sup>じよくそう</sup> 及び慢性創傷の治 療における血流のない壊 死組織の除去の目的 2. 褥瘡 <sup>じよくそう</sup> 及び慢性創傷の治 療における血流のない壊 死組織の除去の適応と禁 忌 3. 褥瘡 <sup>じよくそう</sup> 及び慢性創傷の治 療における血流のない壊 死組織の除去に伴うリスク (有害事象とその対策等)	14

			<ul style="list-style-type: none"> <li>7. リスクアセスメント</li> <li>8. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>及び創傷治癒と栄養管理</li> <li>9. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>及び創傷治癒と体圧分散</li> <li>10. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>及び創傷治癒と排泄管理</li> <li>11. DESIGN - R に基づいた治療指針</li> <li>12. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>及び創傷の診療のアルゴリズム</li> <li>13. 感染のアセスメント</li> <li>14. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>の治癒のステージ別局所療法</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>4. DESING-R に準拠した壊死組織の除去の判断</li> <li>5. 全身状態の評価と除去の適性判断(タンパク量、感染リスク等)</li> <li>6. 壊死組織と健常組織の境界判断</li> <li>7. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法</li> <li>8. 褥瘡<sup>じよくそう</sup>及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法</li> </ul>	
		創傷に対する陰圧閉鎖療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>15. 下肢創傷のアセスメント</li> <li>16. 下肢創傷の病態別治療</li> <li>17. 創部哆開創のアセスメントと治療</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的</li> <li>2. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌</li> <li>3. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 物理的療法の原理</li> <li>5. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法</li> <li>6. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法</li> </ul>	8
創部ドレイン管理関連	5	創部ドレインの抜去	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 創部ドレナージに関する局所解剖</li> <li>2. 創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理</li> <li>3. 創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>4. 創部ドレナージの目的</li> <li>5. 創部ドレナージの適応と禁忌</li> <li>6. 創部ドレナージに伴うリス</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 創部ドレインの抜去の適応と禁忌</li> <li>2. 創部ドレインの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>3. 創部ドレインの抜去の方法と手技</li> </ul>	3



			ク(有害事象とその対策等)			
動脈血液ガス分析関連	13	直接動脈穿刺法による採血	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動脈穿刺法に関する局所解剖</li> <li>2. 動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント</li> <li>3. 超音波検査による動脈と静脈の見分け方</li> <li>4. 動脈血採取が必要となる検査</li> <li>5. 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態</li> </ol>	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直接動脈穿刺法による採血の目的</li> <li>2. 直接動脈穿刺法による採血の適応と禁忌</li> <li>3. 穿刺部位と穿刺に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 患者に適した穿刺部位の選択</li> <li>5. 直接動脈穿刺法による採血の手技</li> </ol>	4
		橈骨動脈ラインの確保			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動脈ラインの確保の目的</li> <li>2. 動脈ラインの確保の適応と禁忌</li> <li>3. 穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. 患者に適した穿刺及び留置部位の選択</li> <li>5. 橈骨動脈ラインの確保の手技</li> </ol>	4
透析管理関連	11	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液透析器及び血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造</li> <li>2. 血液透析及び血液透析濾過の方法の選択と適応</li> <li>3. 血液透析器及び血液透析濾過器の操作及び管理の方法</li> </ol>	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性血液浄化療法に関する局所解剖</li> <li>2. 急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理</li> <li>3. 急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>4. 急性血液浄化療法における透析の目的</li> <li>5. 急性血液浄化療法に係る透析の適応と禁忌</li> <li>6. 急性血液浄化療法に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	7

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	16	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環動態に関する局所解剖</li> <li>2. 循環動態に関する主要症候</li> <li>3. 脱水や低栄養状態に関する主要症候</li> <li>4. 輸液療法の目的と種類</li> <li>5. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌</li> <li>6. 輸液時に必要な検査</li> <li>7. 輸液療法の計画</li> </ol>	6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低栄養状態に関する局所解剖</li> <li>2. 低栄養状態の原因と病態生理</li> <li>3. 低栄養状態に関するフィジカルアセスメント</li> <li>4. 低栄養状態に関する検査</li> <li>5. 高カロリー輸液の種類と臨床薬理</li> <li>6. 高カロリー輸液の適応と使用方法</li> <li>7. 高カロリー輸液の副作用と評価</li> <li>8. 高カロリー輸液の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>9. 低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>10. 高カロリー輸液に関する栄養学</li> </ol>	5
		脱水症状に対する輸液による補正	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脱水症状に関する局所解剖</li> <li>2. 脱水症状の原因と病態生理</li> <li>3. 脱水症状に関するフィジカルアセスメント</li> <li>4. 脱水症状に関する検査</li> <li>5. 脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理</li> <li>6. 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法</li> <li>7. 脱水症状に対する輸液による補正の副作用</li> <li>8. 脱水症状に対する輸液</li> </ol>		5	

					による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9. 脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク(有害事象とその対策等)	
感染に係る薬剤投与関連	29	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症の病態生理</li> <li>2. 感染症の主要症候と主要疾患</li> <li>3. 感染症の診断方法</li> <li>4. 主要感染症の診断方法</li> <li>5. 主要疾患のフィジカルアセスメント</li> </ol>	15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗生剤の種類と臨床薬理</li> <li>2. 各種抗生剤の適応と使用方法</li> <li>3. 各種抗生剤の副作用</li> <li>4. 感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理</li> <li>5. 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法</li> <li>6. 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用</li> <li>7. 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>8. 感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	14
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	16	インスリンの投与量の調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖</li> <li>2. 糖尿病とインスリン療法に関する病態生理</li> <li>3. 糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント</li> <li>4. インスリン療法の目的</li> <li>5. 糖尿病とインスリン療法に関する検査(インスリン療法の導入基準を含む)</li> </ol>	6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>2. 病態に応じたインスリンの投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>3. 外来でのインスリン療法と入院の適応</li> <li>4. インスリン療法に関する患者への説明</li> </ol>	10

			6. インスリン製剤の種類と臨床薬理 7. 各種インスリン製剤の適応と使用方法 8. 各種インスリン製剤の副作用			
術後疼痛管理関連	8	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	1. 硬膜外麻酔に関する局所解剖 2. 硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理 3. 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 硬膜外麻酔の目的 5. 硬膜外麻酔の適応と禁忌 6. 硬膜外麻酔に伴うリスク(有害事象とその対策等)	4	1. 硬膜外麻酔薬の選択と投与量 2. 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法	4
循環動態に係る薬剤投与関連	28	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	1. 循環動態に関する局所解剖 2. 循環動態に関する主要症候 3. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理 4. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント 5. 輸液療法の目的と種類 6. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 7. 輸液時に必要な検査	8	1. カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 2. 各種カテコラミン製剤の適応と使用方法 3. 各種カテコラミン製剤の副作用 4. 病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 5. 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等)	4
		持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量	8. 輸液療法の計画		1. 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の臨床薬理 2. 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の適応と使用方法	4

		の調整		<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の副作用</li> <li>4. 病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>5. 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等)</li> </ul>	
		持続点滴中の降圧剤の投与量の調整		<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 降圧剤の種類と臨床薬理</li> <li>2. 各種降圧剤の適応と使用方法</li> <li>3. 各種降圧剤の副作用</li> <li>4. 病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>5. 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等)</li> </ul>	4
		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整		<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理</li> <li>2. 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法</li> <li>3. 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用</li> <li>4. 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>5. 持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等)</li> </ul>	4

		持続点滴中の利尿剤の投与量の調整			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利尿剤の種類と臨床薬理</li> <li>2. 各種利尿剤の適応と使用方法</li> <li>3. 各種利尿剤の副作用</li> <li>4. 病態に応じた利尿剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>5. 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	4
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	26	抗けいれん剤の臨時の投与	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神・神経系の局所解剖</li> <li>2. 神経学的主要症候</li> <li>3. 精神医学的主要症候</li> <li>4. 主要な神経疾患と病態生理</li> <li>5. 主要な精神疾患と病態生理</li> <li>6. 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>7. 主要な精神疾患の面接所見</li> <li>8. 神経学的検査</li> <li>9. 心理・精神機能検査</li> <li>10. 精神・神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)</li> </ol>	8	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. けいれんの原因・病態生理</li> <li>2. けいれんの症状・診断</li> <li>3. 抗けいれん剤の種類と臨床薬理</li> <li>4. 各種抗けいれん剤の適応と使用方法</li> <li>5. 各種抗けいれん剤の副作用</li> <li>6. 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)</li> <li>7. 抗けいれん剤の投与のリスク(有害事象とその対策等)</li> </ol>	6
		抗精神病薬の臨時の投与			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合失調症の原因・病態生理</li> <li>2. 統合失調症の症状・診断</li> <li>3. 抗精神病薬の種類と臨床薬理</li> <li>4. 各種抗精神病薬の適応と使用方法</li> <li>5. 各種抗精神病薬の副作用</li> <li>6. 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準</li> </ol>	6

					(ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗精神病薬の投与のリスク(有害事象とその対策等)	
		抗不安薬の臨時の投与			1. 不安障害の原因・病態生理 2. 不安障害の症状・診断 3. 抗不安薬の種類と臨床薬理 4. 各種抗不安薬の適応と使用方法 5. 各種抗不安薬の副作用 6. 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗不安薬の投与のリスク(有害事象とその対策等)	6
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	17	抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整	1. 抗癌剤の種類と臨床薬理 2. 各種抗癌剤の適応と使用方法 3. 各種抗癌剤の副作用 4. ステロイド剤の種類と臨床薬理 5. ステロイド剤の副作用	11	1. 抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの病態生理 2. 抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの症候と診断(ペーパーシミュレーションを含む) 3. 抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射の適応と使用方法及び投与量の調整	6
計	335			127		208